

横浜にぎわい座 平成 29 年度指定管理業務評価シート（外部評価）

	上杉委員	垣内委員	西田委員	藤崎委員
Ⅰ 文化事業 ①	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入場者数が対前年度に比し大幅にアップし大変評価できる。その主な要因として、「にぎわい寄席」の充実、「名作落語の夕べ」に各回テーマを設けたこと、開場 15 周年記念公演、柳家三三 11 回シリーズ、抽選方式によるセット販売の開始等の成果と考えられる。 ・横浜能楽堂の協力による「狂言と落語で楽しむ」シリーズの開催は興味深く、その新しい試みを評価する。 <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「名作落語の夕べ」は更なる入場者数アップが期待され、企画内容の一層の工夫を望みたい。 ・若手及び中堅演者の育成は<のげシャレー>から段階的にとり組むのほか、より広い人材から発掘するという観点も必要と思われる。「にぎわい寄席」には落語に限っても年間 300 人以上（注）が出演するので、その中から見出すという小まめな取り組みを期待したい。（注：4 人×7 日×12 月＝336 人） ・「狂言と落語で楽しむ」という試みは芸の共通点と相違点を探るところに面白さがあり、難しいテーマでもあるが継続を期待したい。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大衆芸能の拠点として、多彩で魅力的な公演を数多く行い、自主事業での入館者数、収益も目標を大きく上回ったことは特筆できる。若手育成の公演も人気のように、企画力、マネジメント力の向上が見て取れる。また、動物園など地域の近隣施設との連携やバックステージツアーなど公演以外の活動も意欲的に行われており、地域の祝祭感の向上やにぎわいへの貢献等を通じて地域への定着も着実に進んでいると思われる。 <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民サポーター制度は魅力的で潜在的な可能性も高いと思われるが、今後の活動をより効果的にするためにも、成果を検証していくことが必要であろう。また、教育ニーズの高まりも好材料であるが、学校現場は時間的余裕がなく、横浜市が用意する学校と施設をつなぐ人材や仕組みを活用して教育普及活動を進めていただきたい 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「にぎわい座」ならではの特性を生かしつつ、館総力をあげて、努力や工夫を重ねられ、実績は総じて良好です。 ・企画面では、多彩な構成による魅力的な公演の提供に努め、初心者から愛好家、子供寄席を含む多様な層を対象とする等、市民ニーズも的確に捉えており、集客や収支面に向上改善がみられます。 ・名作落語の夕べにおけるリニューアル等、鑑賞者のニーズをきめ細かく掴み、演者にとっても目標の独演会としてのステータスが確立され、評価できる点です。 ・創造発信においては、演芸の歴史的な変遷紹介（上方と江戸落語）や、狂言と落語で楽しむ「宗論」等新たなチャレンジが光りました。体験型講座（バックステージツアー）や、アウトリーチにおける多角的な取り組みが寄席公演の魅力を着実に引き出しています。 ・演者ステップアップの仕組み（野毛シャレーから芸能ホールへ）は、若手芸人にとっての励み、鑑賞者にも発掘の楽しみを齎す、にぎわい座の強みであり、若手育成の良い流れが定着しています。 <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寄席公演の魅力を親しみやすく届けるために、会場配布プログラムにわかりやすい演目解説を入れる等、更なる工夫を期待します。 ・市民サポーターが、大衆芸能の奥深い専門性を尊重しつつ、「にぎわい座」への愛着や誇りをもって、どのようにサポートに取り組むか（発意）、未だ模索の途にあると思われませんが、モニタリング実施等、「にぎわい座」の具体的な努力への姿勢を評価、大衆芸能の裾野の拡大に向けて市民協働の更なる可能性に期待しています。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経常公演事業および「名作落語の夕べ」において、新たな販促策を実施することで、入場者数およびチケット販売枚数が前年および予算に対しても伸長した点。 ・区民優待デーの実施により、新規利用者を約 5 割獲得できた点。 ・横浜能楽堂や野毛山動物園など、他施設と連携した新たな視点での公演事業をスタートさせた点。 ・市民サポーターを導入し、施設が抱える新たな課題や提案を外部の力を活用している点。 <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公演でのアンケート回収率（8%）が上がるような取組（例えば、回答者に抽選でグッズが当たるなど）を検討されるとよい。 ・市民サポーターによる活動をどのように施設運営の PDCA に取り込むかについての検討が望まれる。
Ⅰ 文化事業 ②	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「名作落語の夕べ」の 29 年度分上演演目をホームページ上に公開したことを評価する。過去の分も公開できた際にはホームページを活用して、上演希望演目を募集してみてはどうでしょうか。 ・「にぎわい寄席」のチラシに全出演者の顔写真を入れたことを大変評価する。次はプロフィール（出身地、師匠、芸歴、所属など）はどうでしょうか。PC で作成し、当日配布でも良いと思います。 <p>【改善が必要と考えられる点】</p>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創意工夫に満ちた多くの情報発信努力をしており、新規顧客獲得にもつながっている点、高く評価したい。野毛地域とのコラボも評価できる。トリエンナーレとの協力も市行政とのコラボとして、評価したい。 <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様なツールを駆使した情報発信やアウトリーチだが、これらの効果や障害になることについての検証は必要である。また、トリエンナーレとの関係では、地域の賑わいづくりと行政への協力に加えて、大衆芸能とあまり関連のなかった客層への訴求という点でプラスだが、一方で、限られたスペースをどう活用するのか、にぎわい座としての基本的なスタンスを改めて検討する必要があるかもしれない。ホール利用率が必ずしも高くない中、大衆芸能だけにこだわらないという選択肢もある。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チラシ、メルマガ、SNS など多様な媒体を用いて、スピード感を持って、見どころや感動、余韻を発信、伝達するなど、大衆芸能について効果的な情報収集発信に取り組んでいます。また都市戦略とも呼応する連携事業の実施、地域に開き、積極的に近隣文化施設や団体と協働し、新しい価値の創造に取り組むチャレンジングな姿勢など、間口を広げる努力も評価できます。 <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民と大衆芸能を繋ぐ機会として、協働やネットワーク構築など、その可能性は無限ですが、根底には、形式的な協働でなく、大衆芸能への高い関心や愛着に基づく市民本来の発意や熱意が大切です。これらを踏まえての仕組みづくりなど、今後の協働プログラムの展開に期待しています。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チラシラックの改善、ホームページでの演目（あらすじ）解説など、お客目線での細やかな配慮が進んできた点。 ・にぎわい座ゆかりの企画展を年 7 回開催し、多様な魅力を外部に発信し続けた点。 ・旅行会社による申し込みが 6 件あったなど、企画商品化が進んでいる点。 <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ターゲットに合わせた広報に対するフィードバックを得られるようなアンケートの実施・分析をそれぞれに対し実施するとよい。 ・電子大福帳の一般公開について、早期に実現が出来るよう手当てをすることが望まれる。
Ⅱ 施設運営	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用料金収入が目標値に達していないという課題はあるが、適切に施設運営されていると評価します。 <p>【改善が必要と考えられる点】</p>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規模の小さな組織でありながら、また、目標は達成されなかったものの、かなりの努力により、これまでより数値の上で改善がみられている。引き続きの努力を期待したい。 <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用料金の目標未達成はさりながら、各施設の利用率については障害要因の特定、利用実態の分析に基づいて方向性を十分検討されたい。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設提供についての運営体制は、必要なセクションに専任的な職員を配置し、急な施設見学者には全員であたるなど柔軟性も備えており、要望や苦情についても組織上部との共有を図るなど適切です。チーフプロデューサーを中心として専門性の向上に注力するなど、運営組織にかかるクオリティをあげる努力がみえます。またポスターやチラシ他による貸館 PR、施設紹介に加え、焦点をあてた効果的な PR（ダンス関係者へメール配信）も実施するなど機会を捉え、きめ細かく全室場の情報を発信し、利用促進やサービス向上によく健闘しています。 <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ、窓口職員、アルバイトや市民サポーターなど、多様な立場の人々が来館者に携わる構成であり、サービスのより向上を目指す目的で、個別の研修やスキルアップだけでなく、にぎわい座スピリットを醸成し、体系化、共有のアートマネジメントセミナー受講の機会を設けると良いと思います。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用希望者施設見学受入を 50 件達成し、関係団体に館のアピールを進めた点。 ・経常公演前後のホール活用につき、ドラマ収録や貸切公演などの利用が増加し、利用料金収入の増加に貢献した点。 ・連絡の際のダブルチェック体制の確立や顧客情報保管の電子化など、情報管理水準の着実な向上が見られる点。 ・職員のレベル別研修を実施し、施設運営の改善に努めている点。 <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各室利用率については、前年度実績は上回ったものの目標未達であったことから、検証と対策を講じることが望まれる。

横浜にぎわい座 平成 29 年度指定管理業務評価シート（外部評価）

目 維持 管理	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 適切に維持管理されていると評価します。 <p>【改善が必要と考えられる点】</p>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害時行動シートの作成やミニ防災訓練などを含む努力を評価したい。また、全般的に、施設は十分な配慮をもって維持されていると考える。 <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設設備は経年劣化が避けられない。建設から既に20年近くたっており、計画的な修復が必要である。また、長寿命化のための予防修繕にも努めていただきたい。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保全、維持管理、修繕は着実適切に行われています。事故、緊急時対応や防災についても、体制や職員の資格更新、訓練や日常の確認など適切に取り組んでいます。引き続き、昨今の想定外の自然災害や高齢者層の増加なども視野に、訓練やマニュアルについても恒常的に十分な対策をとることが必要だと思います。 <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 特にありませんが、引き続き「にぎわい座」及び周辺との連携良好な保全管理、備えを期待します。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 危機管理マニュアルの改訂に際し、簡潔化した「防災シート」を作成し、スタッフ自身が緊急時に使いやすくした点。 すべて異なる状況下での避難訓練を3回、ミニ防災訓練を8回実施するなど、緊急時への対策を怠らなかった点。 保全管理や点検を確実に実施し、来館者アンケートで高い評価を得た点。 <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 特になし
収 支	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 収支の改善に努力され、特に自主事業収入が予算の8.6%増となったことを大いに評価する。 <p>【改善が必要と考えられる点】</p>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 収支バランスは目標達成には至らなかったものの、改善の方向性が明確に見えており、様々な努力の成果と高く評価したい。 <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続きの努力が必要である。特に施設利用については既述のとおり、これまでの方策の検証も含めさらに検討する必要がある。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業収支改善にも種々注力され、安定した施設運営、事業収支を成しています。文化事業①②におけるきめ細かい改善や工夫が事業収入の大幅改善に結びついていることは、大いに評価できます。指定管理料にのみ依存しない収入構造の認識は大切であり、今後も地道に努力を続けていただきたいと思います。 <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設提供の収入安定化について、借り手の立場を勘案し、使いやすさや申し込み易さなどに工夫、利便性について、きめ細かい情報を具体的に提供するなど、発信の在り方に工夫の余地がありましよう。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業収支1,600万円の黒字達成できた点。 販売方法改善などで自主事業収入が予算費1,000万円以上増加した点。 <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用料金収入のさらなる増加に繋がる諸施策を講じることが望まれる。
そ の 他		<ul style="list-style-type: none"> 市民サポーターにせよ、利用促進方策にせよ、多くの努力を評価したい。今後はその効果を検証することも重要かと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでの工夫や改善がよい蓄積となって「にぎわい座」の行き届いた運営姿勢を形成しており、演者、鑑賞者にとっての心地よさ、また大衆芸能の魅力と裾野の拡大にもつながっていることが、視察（現場）等においても、見てとれました。 	

総 括	<ul style="list-style-type: none"> 入場者数の増加により自主事業収入が大幅に増え、自主事業費を16,908千円上回ったことを高く評価する。その要因には「にぎわい寄席」の見直しによる充実、「名作落語のタベ」に各回テーマを設定したこと、セット販売の開始などが上げられる。 「狂言と落語で楽しむ」という新しい試みを評価し、継続することでより大きな成果を期待したい。 “笑いの効用”はガン患者等の医療面、高齢者の娯楽として非常に有効であると謂われており、アウトリーチの対象として広範囲な観点から検討されるテーマと思われる。多くの機関や団体との提携が前提となるので、長期展望の課題とされてはいかがでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 多彩で多様な公演事業が本施設の魅力創出に大きく貢献しているとともに、人材発掘育成にも成果が見えてきていることを高く評価したい。あわせて、地域連携を推進することで地域に定着した施設になりつつあると思われる。これまでの努力により活動内容・運営ともに大きく改善しており、残された主たる課題は、利用促進にあると思われる。詳細な状況分析に基づく検討と改善を期待したい。 	<ul style="list-style-type: none"> H29年度も、館総力を挙げての健闘により、高いクオリティと親しみやすさを兼ね備えた「にぎわい座」らしさの醸成と、地域や社会に開いての連携や、ネットワークづくり、異分野とのコラボレーションなどチャレンジ型の試みもなされています。総じて、集客や収支改善が上向くなどよい成果につながっています。 継続的な①垣根のない公演や、②シャールから芸能ホールへの仕組み、③子供や、初心者から愛好者まで多彩な各層にむけての丁寧なプログラム構成などが、大衆芸能の魅力の伝播に際立っているポイントだと思います。多彩な媒体との連携による広報発信も集客や大衆芸能の魅力の向上に功を奏してきています。（引き続き、冊子賑々は秀逸の印象） 職員配置についても館内外の対応や管理に適した構成に加え、人材育成や資格取得の枠組みが明確であり、柔軟性をもって効果的な管理運営がなされていると評価します。 にぎわい座の存在感を示す地域社会との豊富な連携や、市民サポーターとの協働の取り組みの、段階的な進捗を今後とも期待しています。貸館、貸室利用については、従来からの情報提供に加えて、借り手のモチベーションを上げる工夫、例えば手続きの簡便さ、全室場の各々の使いやすさなどについて、きめ細かく発信するなど、更なる工夫を期待します。 大衆芸能の楽しさ、面白味、奥深さを、笑顔の対応溢れる心地よい環境の中で満喫できる管理運営がなされていると思います。30年度も、引き続き大衆芸能の伝統と創造の魅力溢れる公演、活発な貸館プログラム、市民や社会との連動を期待しています。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度は、新たな視点の公演事業を始める一方、定例の公演についても来館者の目線に立った集客、広報の見直しなどを通じて来館者増に繋げ、事業収支の黒字化を達成できた点は高く評価できます。また、毎回テーマを変えて実施する接遇研修や防災訓練などを通じて、施設運営を支える職員・スタッフの能力開発にも寄与し、これらのことが高い利用者満足度に繋がっているものと評価できます。今後は、各室利用率を上げるための諸施策を各室単位で検討し、目標数値に近づけるように引き続き取り組まれることを期待します。
--------	---	---	---	---

平成29年度 横浜にぎわい座指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H29年度計画		実施状況		評価			
I 文化事業目標①		指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
1 大衆芸能の公演、講座その他の事業を企画及び実施します。	(1) 幅広い大衆芸能の演目の多彩な構成による魅力的な公演等を企画・実施します。(市民ニーズに応え、常時魅力あるプログラムの提供)	【経常公演事業】 ①毎月1日から15日まで芸能ホールで自主事業を連日開催 ②所属団体・流派等に捉われないバラエティ豊かな出演者により、市民ニーズを満たす公演内容	□年間公演数	200公演以上	217公演	A	芸能ホールは217公演開催。小ホール(のげシャレ)公演を合わせると年間252公演開催。	【成果】 ・入場者数は昨年度比8%増となり、事業収支も大幅に好転しました。特に4月にリニューアルした「名作落語のタベ」(全12公演)は、チケット販売枚数30%増(売上16%増)となり、「横浜にぎわい寄席」(全84公演)も区民優待デーの好調などで販売枚数16%(売上15%増)で、収支改善の主因となりました。 ・企画公演(全115公演)は、有名演者による昼公演など落語初心者やグループ客にも来館しやすい公演を行うとともに、柳家小三治、立川志の輔、柳家権太楼、柳家さん喬などの独演会でのにぎわい座を支える落語ファンへのニーズに応えました。これらの独演会は後進の落語家や演芸人の目標になっており、「いつかにぎわい座の舞台に立ちたい」との声をいただくほどのステータスの維持につながっています。 ・4月に開場15周年を迎え、4月～7月に記念公演を開催しました。落語ファンを満足させる人気演者による公演、開場当時に思い起こさせる企画(リクエスト公演)、日頃から力を入れている若手育成公演の出演者の登用などをちりばめたことで、これまでの活動を評価していただけた内容となりました。 【課題】 ・大衆芸能の専門施設として、市民のニーズに合った形で落語以外の芸能も積極的に公演する必要があります。	【評価できる点】 ・にぎわい寄席と今年度料金や公演内容をリニューアルした名作落語のタベについては、企画の魅力アップ、プロモーションや各種タイアップ等の取組が効果的に結びつき、集客の向上に繋がっています。 ・企画公演については、バラエティに富んだ内容で多くの公演が行われ、集客面含め、多様な層に向けた大衆芸能の魅力が伝わっています。 【改善が必要と考えられる点】 ・団体客の増加により、年度後半で客が増える傾向が依然として見られますが、個人客への訴求や季節ごとの魅力ある企画構成等の工夫により、各月ごとの安定した集客に引き続き取り組んでください。 ・名作落語のタベについては、企画と広報をさらにうまく連動させ、良い内容に見合った集客を目指していただくことを期待します。
		③「横浜にぎわい寄席(毎月1～7日)」:落語芸術協会と落語協会に所属する芸人が同じ日に出演する、「横浜にぎわい座オリジナルスタイル」の寄席形式の公演を実施し、安定した集客を確保	□チケット販売数(一公演あたり平均)	100枚以上	121.5枚	A	神奈川、磯見、鶴見、中、保土ヶ谷区の区制90周年記念区民優待デーを実施し、928枚販売。		
		④「企画公演(毎月8回程度)」:落語、漫才、コント、講談、浪曲、奇術、喜劇などバラエティ豊かな内容の公演を日替わりで開催	□こども寄席	2回	2回	B	4月、8月の日曜日に「こども寄席」を開催。それぞれ286人、387人入場し、8月は完売。		
		⑤「開館15周年記念事業」:経常公演でより華やかで祝祭感のある公演、来館経験のない方にも足を運んでもらえるような話題性のある事業を都心部専門文化施設と連携して実施(企画公演、にぎわい寄席と重複)	■開館15周年記念事業を4～7月に実施	実施	実施	—	4月～7月の全80公演を「開場15周年記念」を冠して開催。		
		⑥「開館15周年記念事業」:経常公演でより華やかで祝祭感のある公演、来館経験のない方にも足を運んでもらえるような話題性のある事業を都心部専門文化施設と連携して実施(企画公演、にぎわい寄席と重複)	■記念の顧客サービス	実施	実施(2)	—	4/13(開場日)にオリジナル手拭、根付、出演者提供手拭を抽選でプレゼント。5/6「名作落語のタベ」で玉置宏前館長のサイン入り着書を抽選でプレゼント。		
		⑦「開館15周年記念事業」:経常公演でより華やかで祝祭感のある公演、来館経験のない方にも足を運んでもらえるような話題性のある事業を都心部専門文化施設と連携して実施(企画公演、にぎわい寄席と重複)	□4～7月の合計入場者数	16,000人以上	16,090人	B	4月～7月の芸能ホール、小ホール全80公演の総入場数16,090人。昨年度同期間は15,197人で6%増。		
		⑧「開館15周年記念事業」:経常公演でより華やかで祝祭感のある公演、来館経験のない方にも足を運んでもらえるような話題性のある事業を都心部専門文化施設と連携して実施(企画公演、にぎわい寄席と重複)	■演芸の歴史的な変遷を紹介する新しい企画公演	開催	2公演実施	—	江戸落語と上方落語の成り立ちを探る(9/15「かい枝・兼好」)、伝統的な祝祭芸を紹介(1/4「ニッポンの芸」)		
		⑨「開館15周年記念事業」:経常公演でより華やかで祝祭感のある公演、来館経験のない方にも足を運んでもらえるような話題性のある事業を都心部専門文化施設と連携して実施(企画公演、にぎわい寄席と重複)	■新シリーズ 柳家三三「流れの豚次伝」(11回公演)	開催	11公演実施	—	5月～2月全10公演で10話完結、全公演で前売完売。3/2「流れの豚次伝」作者の三遊亭白鳥をゲストに追加公演開催。		
		⑩「開館15周年記念事業」:経常公演でより華やかで祝祭感のある公演、来館経験のない方にも足を運んでもらえるような話題性のある事業を都心部専門文化施設と連携して実施(企画公演、にぎわい寄席と重複)	■抽選方式のセット券販売	実施	実施	—	7月に「三三づくし」後期5公演セット券を抽選販売。この他に4月に「志の輔no1にぎわい」3公演の単独券を抽選販売。		
		⑪「開館15周年記念事業」:経常公演でより華やかで祝祭感のある公演、来館経験のない方にも足を運んでもらえるような話題性のある事業を都心部専門文化施設と連携して実施(企画公演、にぎわい寄席と重複)	■狂言と落語のコラボレーションなどににぎわい座オリジナル公演を開催	実施	1公演開催	—	「狂言と落語で楽しむ『宗論』」を横浜能楽堂の協力を得て開催(3/10)。		
		(2) 創造的で発信性のある取組を実施します。	・出演者の新たな挑戦を長いスパンで体感(人気公演シリーズ化)のげシャレ公演(年間10公演)	□年間公演数	10公演以上	7事業14公演開催	A		
■個性的なロケーションでの演芸会の実施	実施			1事業2回開催	—	黄金町バザール2017参加「ダメじゃん小出の爆笑!にぎわい!大道芸」(10/29、2回公演)。			
⑫「開館15周年記念事業」:経常公演でより華やかで祝祭感のある公演、来館経験のない方にも足を運んでもらえるような話題性のある事業を都心部専門文化施設と連携して実施(企画公演、にぎわい寄席と重複)	□年間公演数			20公演以上	20公演	B	入船亭小辰、三遊亭幹歌、東家一太郎の新シリーズほか。		
⑬「開館15周年記念事業」:経常公演でより華やかで祝祭感のある公演、来館経験のない方にも足を運んでもらえるような話題性のある事業を都心部専門文化施設と連携して実施(企画公演、にぎわい寄席と重複)	□平均入場者数			100人以上	94.3人(年間1,885人)	B	1公演は1月の大雪の影響あり。		
(3) 若手実演家育成の仕組みを作り実践します。	①「登竜門シリーズ in のげシャレ」:若手芸人研鑽の場として小ホール(のげシャレ)のシリーズ公演を実施	□経常公演へ起用	5回以上	10名15公演に起用	A	登竜門シリーズ出演者および二ツ目を積極的に起用。古今亭志ん吉、三遊亭幹歌、入船亭小辰ほか。	【成果】 ・若手育成公演「登竜門シリーズ」は、今年度から「真打昇進後3年で卒業」とし、有望な若手の登用を進めています。入場者数は目標に達しませんでした、3つのシリーズをスタートさせ、完売・大入公演も増えています。 ・「名作落語のタベ」に二ツ目を抜擢する回を設けるなど、出演の機会を増やしました。 【課題】 ・芸能ホールで定期的な独演会が開ける人材が頭打ちにならないよう、有望な人材の発掘・育成は継続的に行っていく必要があります。	【評価できる点】 ・小ホールから芸能ホールへ繋がる若手育成の仕組みが確立しており、今年度も各種公演を通じ継続的な実践が行われました。 ・新たな若手演者を取り上げた新シリーズにより、将来に期待させる公演が行われました。にぎわい座で取り上げてきた演者の昇進披露公演が行われるなど、これまで演者と施設で培ってきた関係性の成果が現れました。 【改善が必要と考えられる点】 ・登竜門シリーズ集客が、前年度比でも下がっていますが、若手演者の実力と人気の成長に連動した、今後の伸びに期待します。	
		□「名作落語のタベ」への抜擢登用	実施	2公演に2人に起用	—	柳亭小痴楽、立川志の八。			
		⑭「開館15周年記念事業」:経常公演でより華やかで祝祭感のある公演、来館経験のない方にも足を運んでもらえるような話題性のある事業を都心部専門文化施設と連携して実施(企画公演、にぎわい寄席と重複)	□アンケートの実施回数	全公演実施	250公演で実施(2公演未実施)	B			回収率8%、3,112枚回収し、全職員で回覧。
(4) 鑑賞者の拡大を図る取組を実施し、事業を支える仕組みを構築します。	①市民ニーズ把握の取組 ・全公演でのアンケート実施 ②鑑賞のすそ野の拡大・公演入場者数の拡大 「大人のための寄席体験&交流プログラム」:新たな観客創造を目的に、寄席の楽しみ方の紹介や出演者との交流の場を提供 ③要請により貸切公演を開催し、新規顧客を開拓してリピートにつなげる	□市民サポーター等による公演モニター実施回数	4回以上	4回7名実施	B	区民優待利用の老人クラブ会長、市内在勤のフランス人、障がい者手帳をお持ちの方などに公演後モニター実施。2件はホームページでご意見を公開。	【成果】 ・公演来場者アンケートや貸切公演主催者アンケートは予定通り実施し、高い満足度を得ています。公演アンケートやホームページ問合せ欄に「他の観客の鑑賞マナー」に関する意見が目立ちましたが、表方チャットとその都度打合せを行い、対処方法の改善につなげています。 ・初めて個人の市民サポーターによるモニターングを行いました。チラシのレイアウトや文字サイズなどにご意見をいただき、改訂を行いました。 【課題】 ・観客創造事業はワンパターンに陥らず、多様な企画を生み出す必要があります。	【評価できる点】 ・「大人のための寄席体験」の継続実施と、一部アウトリーチへの建替えもあり、より幅広い層に落語への入り口を用意し、落語の魅力を伝えることができました。 【改善が必要と考えられる点】 ・着手し始めた市民サポーターの取組を、どのように定着させ、体制を構築していくかが課題と言えます。 ・鑑賞者の裾野拡大に関する事業については、実施によって期待する効果にどのようにつながっているかを検証しながら進めていく必要があり、その仕組みの構築を期待します。	
		□「大人のための寄席体験」開催数	2回以上	2回開催	B	企業と共催で館外で1公演(無料)、のげシャレで交流会付きで1公演実施。ともに満席。			
		□合計参加者数	140人以上(初来館者60%以上)	99名(100%、42%)	C	1公演をアウトリーチにしたため参加者数は目標に達せず。アウトリーチは参加者全員が来館経験なし(100%)、3/17は42%が初来館(アンケートから類推)			
		□貸切公演開催回数	6回以上	7回実施	A	企業、法人会、学校など。			
		□主催者の満足度	4以上	4.8	A	貸切公演主催者用アンケート実施。			
		□アンケートの実施回数	全公演実施	250公演で実施(2公演未実施)	B	回収率8%、3,112枚回収し、全職員で回覧。			
		□市民サポーター等による公演モニター実施回数	4回以上	4回7名実施	B	区民優待利用の老人クラブ会長、市内在勤のフランス人、障がい者手帳をお持ちの方などに公演後モニター実施。2件はホームページでご意見を公開。			

平成29年度 横浜にぎわい座指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

(5) 市民の大衆芸能に関する学習活動や創作活動を支援します。	28	①市民の創造性や感性を育み、特定のファンに限らず幅広い層ににぎわい座を知ることによる将来の観 ②大衆芸能を中心にしつつ、ジャンルを広げた企画 ③毎回重点テーマ(訪問先)を決めたアウトリーチの 実施 「ワークショップ、講座」:寄席にちなんだワークショッ プ、野毛周辺で盛んなジャズを知る講座、横浜トリエ ンナーレ及び横浜芸術アクション事業に合わせた音楽 ・美術・舞踊のジャンルで大衆芸能と親和性を持 たせたワークショップなどの開催	「寄席文化体験」 □講座開催数	2講座以上	3事業4講座実施。	A	新規2講座(「野毛山動物園で楽しむ動物ものまね」,「落語のトビ ラ〜番外編」)を含む3講座4回実施。	【成果】 ・計画どおり事業を遂行しました。アウトリーチ先は新規2施設を 加え、それぞれの施設の期待に応えられる若手芸人を起用し ました。 ・バックステージツアーも多数開催し、初めて一般対象のツ アーも実施しました。にぎわい座の魅力を公演とは別の視点か ら紹介しました。	【評価できる点】 ・講座、ワークショップ、バックステージツアー、アウトリーチ等の さまざまな取組みの中で、市民が大衆芸能やそれを扱うにぎわ い座についての興味・関心につなげる機会を積極的に生み出 しています。 ・近隣施設(動物園)と連携し、寄席芸能の特性と絡めた新規 事業の拡充がありました。	
	29		□同 合計受講者数	50人以上	74人	A				
	30		■新たに企業との共催での講座を開催	実施	1講座	-		三菱地所レジデンス倶楽部との協働。		・アウトリーチが着実に取り組まれており、における若手芸人の 起用機会も増えています。
	31		「野毛まちなかキャンパス」 □講座の共催開催数	2回以上	2講座実施	B		「横浜にぎわい座を知る」(12/4)、「寄席の楽しみ方」(12/18)。		
	32		□同 会場提供数	3回以上	3回実施 (共催を除く)	B				【改善が必要と考えられる点】 ・落語のみならず、大衆芸能全般に関する多様な関心を喚起 するような取組を期待します。
	33		□同 職員の講師派遣数	2回以上	2回2人実施	B		「横浜にぎわい座を知る」(12/4):事業担当リーダー、「寄席の楽し み方」(12/18):チーフプロデューサーが講師を務めた。		・市民サポーターの立ち上げに向けた与条件の整理を行い、 ボランティア育成のしくみと、効果的な協働メニューを検討し、 具体的な取組につなげていくことを期待します。
	34		「バックステージツアー」 □一般向け(子供向け含む)開催数	3回以上	2回実施	C		子ども対象(8/6、40人)、一般向け当日参加(3/4、24人)実施。		
	35		□団体向けオンデマンド開催数	5回以上	8回実施	A		街コン、野毛まちなかキャンパス、私立中学校PTAなど 全8回、計181人参加。		・バックステージツアーやアウトリーチ等の取組により、施設に お越しいただいたお客様を、どう集客や芸能文化への参加に つなげるか、検証を重ねていく必要があると考えます。
	36		「アウトリーチ」:将来の観客作り、にぎわい座のPR、 上演の可能性拡大、多くの方に大衆芸能の楽しさを 伝えること等を目指した、施設外での取組	□高齢者施設での実施数	3回以上	4回実施	A	「にしよこ寄席」(ガッツ・びーと西)3回、「しあわせサロン寄席」(宮 崎台地域ケアプラザ)1回(新規開催)。近隣の高齢者の方が参 加。		・子どもを対象とした企画「野毛山動物園で楽しむ動物ものま ね」は、良い企画である一方、集客が若干苦戦しました。企画 の実施時期、広報等の工夫等の取組が必要です。
	37			□アウトリーチへの若手芸人起用数	3回以上	9公演延べ12名	A	桂夏丸、桂宮治、春風亭正太郎ほか。		
	38			□アウトリーチ先の新規開拓施設数	2施設以上	2施設	B	ともに共催事業として実施。		
	39			■市民サポーター協働のモデル事業としての実施	実施	実施	-	加えて平成30年7月の新規アウトリーチを市民サポーターと準備 中。		
				■個性的なロケーションでの演芸会の実施	(1-(2)再掲)					
(6) 子どもの創造性育 成の取組を行います。	40	①大衆芸能の楽しさと伝統を伝え、日本の文化への 理解を深め、子どもの創造性や感性を育む 「寄席体験プログラム」:小学生向けに寄席体験の機 会を提供	□参加児童、生徒数	1,800人以上	2,167人	A	「寄席体験プログラム」(6月、10月の7日間実施)に市立小学校18 校児童1,615人参加。その他に県立高校、私立中学校など4回の 貸切公演による寄席体験を実施し、合計参加生徒552人。	【成果】 ・今年度も「寄席体験プログラム」「芸術文化教育プラットフォー ム」「はまっこ未来カンパニープロジェクト」を実施し、学校ニー ズに合わせたプログラムを実施しました。 ・学校による貸切公演での寄席体験プログラムも、リポート校、 新規校、ともに要望があり実施しました。学校側のニーズと評価 を実感することができました。	【評価できる点】 ・「寄席体験プログラム」を、要望に対応し幅広い相手に対して 実施しました。 ・学校プログラムその他の学校の要請による事業も積極的に取 り組んでおり、機会を逃さず様々な場面で学校や子供のニー ズに関与し、将来へ繋がる若い世代に対して、落語演芸の魅 力を伝える機会づくりを行っています。	
	41		■事業の実施効果を高めるための教員向け講座の	開催	未実施	-	実施機会なし。			
	42	「学校プログラム」:市立小学校等でのアウトリーチ 事業の実施により子どもたちに触れ合いと体験の場 を提供	□コーディネーター校数	3校以上	5校実施	A		鶴ヶ峰小、篠原小、平戸小、日野南小、荏子田小の合計5校で、 鑑賞や体験を実施。7日間で855人参加。		
	43		□教育委員会、教育機関との連携事業	実施	実施	-		境木小学校で2日間の落語講座実施、30名参加。		
	追加		・その他(学校行事への協力等)	-		-		本町小学校(学区内)、笹下中学校(港南区)の校外学習に協力。		【改善が必要と考えられる点】 ・引き続き「寄席体験プログラム」の対象エリアを、近隣区のみ ならずより広範囲な区に広げる等、多くの生徒児童が参加で きるような推進力や外部の協力(市民協働)が必要です。

平成29年度 横浜にぎわい座指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H29年度計画		実施状況		評価		
I 文化事業目標②	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
2 大衆芸能に関する情報の収集及び提供を行います。	①情報収集及び提供 ・公演情報の集積(他施設情報の収集、配架の工夫)	■より分かりやすく手取りやすい配架方法への変更 ■チラシラックに「スタッフのお薦めコメント」を付け親しみやすさを付加	実施	実施	大看板を更新し、エントランスで公演ポスターを掲出。 ラックには手作りのPOPを作成。 エントランスの大看板に出演者の掲載新聞を掲示。	【成果】 ・自主、他館の公演チラシを分かりやすく配架しました。また今年度も多くの相談や問い合わせに対応しました。 ・今年度「名作落語のタベ」はホームページに特集ページを作成し、前バブ・後バブを行いました。また他の公演も担当者が終演直後に公演の様子をSNSで発信し、舞台の感動と余韻を伝えました。 ・自主事業の広報は、公演の特徴が活きるようなチラシデザイン採用、「子ども寄席」は演目解説を付けるなど工夫しました。 ・会員向けメールマガジンを定期配信し、これからの公演の見どころを伝えました。 ・5区で実施した区民優待デーは、各区役所の協力を得て、「広報よこはま区版」掲載や町内会回覧板といった普段使用できない広報ツールで、地域にきめ細やかに広報し、成果を上げました。 ・展示事業では、近隣施設、NPO、市民団体との共催(野毛山動物園写真展、黄金町バザール2017展、干支の絵展)など市民協働のもとに開催し、多くの観覧を得ました。開場15周年記念事業の展示を含め、全12の展示を行い、通年で情報コーナー、展示コーナーを活用しました。 【課題】 ・電子大福帳(過去公演の演目、演者掲載)の一般公開は、費用面で課題があり、30年度に持越しとなりました。	【評価できる点】 ・各種芸能に関する企画相談やコーディネートの要請を積極的に受け入れるとともに、メルマガやtwitterなどによる情報発信も軌道に乗せ、地域情報の随時の発信にも注力するなど、積極的な芸能情報の提供に努めています。 ・チラシの一部改訂等、広報・PR面での取り組みを拡大しています。 ・黄金町関連での展示の実施等、1(2)の「近隣文化施設(活動)との連携」と関連した効果的な取り組みが行われています。 【改善が必要と考えられる点】 ・WEB上で公演後の来場者インタビューや一部公演内容のテキスト掲載は行っていますが、閲覧者が参加したくなるような、雰囲気、イメージがさらに伝わるような表現方法の工夫を期待します。 ・アーカイブ関係の取組をどのように進めていくのか、方向性の検討を進めてください。 ・広報面では、紙媒体等についてにぎわい座のブランド力を向上させるものや、大衆芸能になじみの無い層にも訴求できるようなデザイン等の工夫も期待します。	
	2	・記録(自主事業の映像記録、電子大福帳) ※資料としての公開等、活用に向けた取組みの実施	□電子大福帳への公演情報の入力数 ■「名作落語のタベ」過去186公演分の上演演目をホームページ上で公開	年間200件以上	全255公演入力			A
	3	・情報提供、相談対応(大衆芸能公演の実現に向けた市民等からの相談照会への対応)	■自主事業で特にアーカイブ化が必要とされる公演を選定し、映像を公開 □催事開催に関する相談対応や出演者の紹介などのコーディネート件数	20件以上	32件			A
	4	・広報、ホームページ ※訴求ターゲットを意識した公演チラシデザイン等の改訂 ※ホームページのコンテンツ拡充 等	■チーフプロデューサー等がレクチャーや授業を担当。 □WEB会員へのメールマガジン年間配信回数	12回以上	36回			A
	5		□Twitter年間配信回数	400回以上	657回			A
	6		■地域の行事や大衆芸能ミニ知識等、多彩な内容でのTwitter配信	実施	周辺情報のツイート26回			-
	7		■チラシは公演やシリーズごとに訴求対象を明確にし、それに合わせた仕様を採用	実施	実施			-
	8		■区民優待デー、沿線住民優待デーなどのキャンペーンにより各地域で広報実施	実施	実施			-
	9		■財団広報ACYグループと連携したプレスリリースの実施	実施	5回実施			-
	10	・メディア懇談会	□メディア懇談会開催回数	1回以上	2回実施			A
	11	②展示・演出 ・常設展・企画展・協力展(通年) ・開館15周年特別展(H29年度) ・照明や解説文などの工夫による展示の質向上、英語によるキャプション作成	□企画展の年間開催数	4回以上	7回実施			A
	12		□「黄金町バザール2017」サテライト展示	実施	実施			-
	13		□市民団体や近隣施設と連携した特別展の開催回数	2回以上	4回実施			A
	14		■常設展の解説や展示方法を改訂し、展示の質を向上 □季節の館内装飾展示替え回数	6回以上	13回実施			A
	15		□市内のアーティストと連携した館内装飾の実施回数	1回以上	1回実施、常設			B
	16		□「にぎわい座利用促進委員会」との共催事業の実施数	5公演以上	10公演共催			A
	17		■野毛大道芸など地域主体のイベントへの協力	実施	実施			-
	18		■MM21地区就業者の交流団体向けイベントを3回以上実施し野毛への誘客を実現	実施	2回開催			-
	19		・その他	-	通年実施 区民優待(5) イベント協力(4) 取材協力(2)			-
	3 街のにぎわいづくりに寄与します。	①野毛地区との連携 ・「野毛地区街づくり会」や「野毛飲食業協同組合」と連携して、お互いのイベント広報活動に協力 ・野毛地区と互いの集客が好影響を与える点を重視した取組 ・公演鑑賞と野毛での飲食の楽しみを加え、お客様にも野毛の飲食店にも喜ばれる企画の実現	■野毛地区飲食業協同組合の「野毛通手形」(飲み歩きクーポン)に参加 ■公演チケットと野毛通手形の組合せによるタイアップ等の実施 ■大規模合コン「街コン」に参加し、若い新規来館者を獲得し、野毛への誘客も実現 ■のげ茶屋と連携し、公演鑑賞を更に楽しくする飲食サービスの提供	参加	参加			6/1~11/30「野毛通手形season9」を窓口で販売。 6/1~11/30「野毛通手形」提示で公演チケット10%引きのサービスも実施。10/1~3/31近隣ハンバーガーショップで半券提示割引実施。 「街コン」2回、「大人の街コン」1回実施。合計67人参加。
20					1階、階段踊り場、3階に中嶋修さんの大型作品「招福、万歳」など3点を展示。			
21					開場15周年記念企画展として「玉置初代館長メモリアル展示」「中嶋修 にぎわい座を描く2017~横浜にぎわい座、始まってから15年」ほか、企画展として「お笑いばっちり倶楽部会員写真展」など、7つの企画展を実施。			
22					「アーティストが見た黄金町展」(8/4~5/15)を特定NPO法人黄金町エリアマネジメントセンターと共催。			
23					「街のとぎめき 森直実 大道芸写真展」(野毛大道芸実行委員会共催)、「野毛山動物園のにんきもの展」(野毛山動物園共催)、「干支の絵展~成年」(横浜開港アンデパンダン展共催)ほか、4つの特別展、協力展を実施。			
4 市民と大衆芸能をつなぐ取組を行います。	①市民と大衆芸能をつなぐ多様な取組み ・鑑賞や自演、学習・体験だけでなく、他のアプローチで大衆芸能の支援者、ファンを増やす取組の実施	□「にぎわい座利用促進委員会」との共催事業の実施数	5公演以上	10公演共催	A	【成果】 ・アートNPOや社会福祉法人と協力し、その専門性やネットワークを活かしたアウトリーチや展示事業を実施しました。個人の市民サポーターとは、公演に関するモニタリングや次年度につながる事業準備を行いました。 【課題】 ・「大衆芸能の振興や地域への浸透」に意欲があり、にぎわい座のサポーターになることで自己実現を図っていたような人材を増やす必要があります。	【評価できる点】 ・にぎわいスタッフの存在を重視し、積極的に館運営に参加してもらい、役割意識を育てる形で施設運営を行っています。 ・学校生徒の職業体験について多数受け入れを行う等、相手方の要望に柔軟に対応し、市民と大衆芸能を繋ぐ機会を積極的に設けています。 【改善が必要と考えられる点】 ・施設の印象に直接影響を与える、にぎわいスタッフの基本的な業務(チケット発券等)の接遇向上の取組を継続して行ってください。 ・市民サポーターの組織化も課題です。	
	24				「街のとぎめき 森直実 大道芸写真展」(4/4~5/15)、ポスター掲出やハンフレット配架を積極的に実施。			
	25				かもめスクールで講座と落語鑑賞会を2回開催。講師はチーフプロデューサー。			
	26				ホームページに「名作落語のタベ」解説や「江戸落語、上方落語の違い」など鑑賞サポートとなる読みものを掲載。8月の「横浜にぎわい寄席」でゆかた割引を行い、夏のお出かけ来館を促進。			
	27				アンケートで意見を収集。			
28	②サポーター等との協働 ・にぎわいスタッフ	□にぎわいスタッフの声を活かすための改善提案アンケート実施数 ■チケット販売促進プロジェクト推進	2回以上	2回実施	B			
29								
30								
31	・市民サポーター ※生徒・学生等の実地体験等を積極的に受入れ	□アウトリーチ、鑑賞者開拓、広報活動等での活動実績数	5件以上	8件	A			
32		[職業体験、アートマネジメント実習] ■学校や学生からの要望があれば積極的に受入れを実施	実施	中学生職場体験4校 教師の職場体験1名	-			

平成29年度 横浜にぎわい座指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

I 文化事業目標②	評価項目	H29年度計画		実施状況		評価									
		指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価							
5 都市戦略及び他施設と連携します。	①都市戦略との連携 ・横浜アーツフェスティバル、オリバラ関連事業等との連携	「ヨコハマトリエンナーレ2017」協力 ■「黄金町バザール」に参加 □連携企画、広報協力などを実施	「ヨコハマトリエンナーレ2017」協力 ■「黄金町バザール」に参加	実施	実施	-	8/4～9/13 黄金町バザール2017関連展示「アーティストが見た黄金町」展、10/29「ダメじゃん小出の爆笑! にぎわい! 大道芸」を黄金町エリアマネジメントセンターと共催。	【成果】 ・「ヨコハマトリエンナーレ2017」のPRやチケット販売などで協力するとともに、黄金町バザール2017「アーティストが見た黄金町展」を共催し、ヨコハマトリエンナーレの盛り上がり寄与しました。 ・「横浜ダンスコレクション2018」は、3タイトル全8公演を共催し、コンテンツポラリィパフォーミングアーツ分野における、のげシャレー(小ホール)の更なる活用につなげました。 ・横浜能楽堂の協力のもと、狂言と落語のコラボレーション公演(「狂言と落語で楽しむ『宗論』」)を初めて開催し、舞台芸術の楽しみ方のバリエーションを広げ、また演芸ファン以外の来館も促進しました。 【課題】 ・「横浜ダンスコレクション」とは今後も共催公演を行う見込みですが、約3週間に渡り地下の全室場を使用するため、他の貸館利用者への貸出しが不可となってしまいます。	【評価できる点】 ・トリエンナーレを盛り上げる支援や連携事業の取組をはじめ、市の事業や芸術文化振興に繋がる関連事業に積極的に協力連携し、活動・発信の場を設けています。 【改善が必要と考えられる点】 ・小ホール利用での大衆芸能に直接関係の無い各イベントの受入について、限られた枠内でどう棲み分けを図っていくか、今後検討してください。						
										「2020オリ・バラ関連企画」 ■外国人による公演モニターを実施	実施	1回実施	-	2月の横浜在勤のフランス人による「横浜にぎわい寄席」公演モニター実施。	
										■横浜ジャズブロード会場運営チーフに職員を派遣 ■TPAM参加カンパニー公演運営に協力	実施	実施	-	日本大通り駅チケット引換所の職員1名をチーフとして派遣。	
										■横浜ダンスコレクション公演運営に協力	実施	実施	-	後述の「横浜ダンスコレクション2018」の利用が設置等含め18日間になったため、その他のTPAM参加者への会場提供は実施で「ダンスクロス アジアセレクション」「コンペティションII 新人振付家部門」「寺田みさこ『三部作』」の8日間8公演を共催。合計入場者数638人。 横浜観光コンベンションビューローのメールニュースで会議関係者や企業に向けて当館の利活用を提案(1/18配信)。	
										・アフターコンベンションでの来館促進によるMICE推進	■会議関係者に対するニーズ調査の実施	実施	実施	-	旅行会社による申し込み6件。この他に、市立中学校の街歩きイベントと県内私立中学校の横浜遠足の際に「寄席体験プログラム」を実施。
										・修学旅行やツアーでの企画商品化	□旅行企画商品化件数	3件以上	6件実施	A	
										②他施設等との連携 ・「財団内施設」「若手支援・舞台芸術の振興」「地域連携」「その他」などの場面・目的に応じた施設連携	■狂言と落語のコラボレーションなどにぎわい座オリジナル公演を開催 ■個性的なロケーションでの演芸会の実施	(1-(2)再掲)	(1-(2)再掲)		

平成29年度 横浜にぎわい座指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H29年度計画		実施状況		評価	
II 施設運営目標	特記(提案事項要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
1 大衆芸能等の公演、練習、創作その他の活動のための施設の提供を行います。	①各室場を、公演、練習、創作活動の場として積極的に貸出し、市民文化の振興に寄与。 ※大衆芸能での利用を優先し、空きがある場合はそれ以外のジャンルでの利用にも提供 ・施設の提供	①基本的な施設の提供 □開館日数・時間	341日(月2回 施設点検で休館)、10時～22時 (-2に記載)	予定通り開館	B	【成果】 ・計画通り施設運営を実施しました。 【課題】 ・後段の利用率、利用料金の目標未達成を考慮し、貸館セーラスを意識した対応が必要です。	【評価できる点】 ・適切に施設の提供が行われています。 【改善が必要と考えられる点】 ・特になし。
	・貸館の運営体制 ※貸館受付:常時2名以上在席(舞台技術者は常時1名対応可)	③貸館の運営体制 ■管理担当職員1人を貸館メイン担当とし、舞台技術者とともに公演打合や利用相談を担当 ■見学対応は全員で実施	実施	実施	-	ホールは管理職員1名が専任的に担当することで、ノウハウを蓄積。	【改善が必要と考えられる点】 ・小ホールとのセット割等、利用促進に関する提案項目に未実施のものがいくつかあります。今年度できなかった理由を検証の上、実施に向けた具体的検討を行ってください。
	・舞台運営体制	■舞台技術スタッフは芸能ホール3人、小ホール1人(小ホールは利用状況に応じて2人体制)	実施	実施	-	利用者の安全に配慮し、施設貸出を実施。	
		■舞台技術統括責任者は経験10年以上、残り4人も経験5年以上	実施	実施	-	統括責任者は経験29年、他も条件を充足。	
		④要望・苦情への対応	(-2に記載)				
	②利用料金の改訂						
2 利用促進及びサービスの向上、アイデア・ノウハウの一層の活用に取り組みます。	・稼働率目標	□目標利用率				【成果】 ・撮影や経常期間内の空き時間帯の貸切公演実施は、柔軟に対応し、実績が伸びています。 ・全室場で利用率が昨年度を上回り、利用料金収入も9%増加しました。施設見学会や地下練習系施設のPRを新たにを行いました。 【課題】 ・それぞれの利用率向上のための取組について、効果があったのかの検証を行い、次年度の計画に生かせるようにしてください。 ・小ホールとのセット割等、利用促進に関する提案項目に未実施のものがいくつかあります。今年度できなかった理由を検証の上、実施に向けた具体的検討を行ってください。	
	6-1 芸能ホール(日)	79%	77%	B	28年度を上回るものの目標には達せず。		
	6-2 のげ茶屋(日)	68%	67%	B	28年度を上回るものの目標には達せず。		
	6-3 練習室(時間帯)	67%	61%	B	28年度を上回るものの目標には達せず。		
	6-4 制作室(時間帯)	45%	40%	C	28年度を上回るものの目標には達せず。		
	・利用率及び利用者サービスが高まる工夫	■土日祝日の施設空き情報をホームページ、SNSで案内	実施	空きがある月に10回実施。	-		貸出抽選会後の土日祝日の空き情報をホームページで案内。
		□利用希望者施設見学受け入れ件数	12件以上	50件実施	A		全員が対応することで急な見学依頼も受付。50件中、24件は初めての見学希望者。
		□平日夜間の夜間見学会開催回数	2回以上	2日間4回実施	A		芸能ホール、小ホール(練習室、制作室含む)の見学会を各1日2回実施。合計8組参加。
		□大学のダンスサークルへの練習室の宣伝活動実施団体数	10団体以上	552団体(個人および大学以外を含む)	A		横浜赤レンガ倉庫1号館の協力でダンス関係者552名に地下諸室の紹介と見学会の案内をメール配信(12月)。
		□練習室、制作室の紹介ツール作成数	2種以上	3種作成	A		(1)ポスター(館内、館外ポスターケース用)、(2)貸館情報チラシに案内掲載(毎月)、(3)公募美術展カタログへの広告掲載(50,000部)。
	・新規の利用者を増やすための工夫	□表方スタッフの配置サービス提供数	2件以上	1件実施	C		7月の貸館公演(落語会)で表方スタッフ有償配置実施。小ホールでの若手支援公演(共催)での配置プランを作成。
	・経常公演前後のホール活用プラン	□撮影での貸出回数	2回以上	7回実施	A		NHK「ファミリーヒストリー」「笑点スペシャルドラマ」のほか、DVD収録に貸出。
		□経常公演期間中の空き時間の貸出数	4件以上	7件実施	A		貸切公演、番組収録など経常公演期間中の空き時間に貸出を実施。
		■商業的な撮影協力金の設定	実施	実施	-		フリースペース等で行う撮影についての撮影協力金を設定。館長室でのテレビ番組収録の実績1件。
・要望苦情への対応	■貸館に関する要望、苦情は、すべて副館長まで報告 ■内容によって財団事務局や文化観光局に即時に報告	実施	実施	-	滞りなく実施。 必要に応じて実施。		
・グッズ販売	□オリジナルグッズの新商品発売数	1種類以上	未実施	C	書籍の新規取扱1件。新規のオリジナル商品の発売は実施できず。		
・1階エントランスの演出、活用プラン	□地域イベントのインフォメーション実施回数	2回以上	2回実施	B	野毛大道芸、野毛通手形のインフォメーションを実施。他に区民優待デー(合計35日間)で専用チケット販売ブースを設け年間を通じて、メディア懇談会や関西からの出演者への弁当発注で野毛の味を紹介し、タイアップは実施せず。		
・売店事業者との連携	□のげ茶屋とのタイアップ回数	2回以上	未実施	C	30年度以降に実施。		
・利用料金の割引等の取組み	■小ホールと制作室のセット割引を設定 ■附帯設備セット内容を変更	実施	未実施	-	30年度以降に実施。		
3 組織的な施設運営を行います。	①適切な運営組織体制と人材の配置 ※館長1、副館長1、企画コーディネーター1、チームリーダー1、事業担当3(内1名はアシスタントプロデューサー)、管理担当3、アルバイト(事業・運営共通)2、公演表方チーフ1、にぎわいスタッフ最大30	■適切な人員の配置と運用 ※館長1、副館長1、CP1、TL1、担当L2(管理運営1、事業1)、職員4(管理2、事業2)、アルバイト2(3人2ポスト)、公演表方チーフ1(2人1ポスト)、にぎわいスタッフ最大30	実施	実施	-	※館長1、副館長1、CP1、TL1、担当L2(管理運営1、事業1)、職員4(管理2、事業2)、アルバイト2(2人1.5ポスト)、公演表方チーフ1(2人1ポスト)、にぎわいスタッフ27。	
	②主要人材の能力確保、研修実施、スタッフの育成・チームワーク醸成の取組み ※アシスタントプロデューサーの育成	■勤務体制はシフト制とし、主催事業や貸館状況に応じて出勤職員、人数を決定。 ■大衆芸能分野のプロデューサーを配置。チーフプロデューサー、アシスタントプロデューサー(事業担当職員)各1人を配置し、中期的に育成。 ■市民サポーターや地域連携推進のため、職員がファシリテーターとしての役割を發揮 ■研修参加や資格取得を奨励	実施	実施	-	貸館、自主共に開演中の時間帯は、リーダー以上が在席して、安全管理に注力。 チーフプロデューサー1名配置。アシスタントプロデューサーは財団の専門人材育成施策の中で呼称が廃止。事業担当の若手職員の専門性を高めるOJTを実施。 アウトリーチ事業の企画や相談対応。	
	③環境への配慮 ■施設の利用状況を細目に確認しながらの空調・照明のオンオフ操作による光熱水費の削減。 ■新たにゴミ処理有料化を開始し、ゴミの軽減と持ち帰りを促進	■特定の課題、テーマについて全職員が意見を言える環境づくり	実施	テーマ設定2回実施	-	普通救命救急研修2回受講。サービス介助士資格更新研修受講し資格再取得。 防災、窓口販売グッズに関する意見徴集。個別面談も実施。	
	④市内中小企業優先発注 □備品・消耗品購入 □修繕・備品の買い替え □印刷物	■個人情報保護・情報公開 ■「財団の個人情報保護に関する規程」「にぎわい座個人情報取扱マニュアル」を遵守。 ■ファックス送信や郵送の際のダブルチェックの徹底。 ■入場券販売に票券管理システムを導入し、紙ベースでの顧客情報保管を廃止。 ② 人権尊重 ■人権研修への参加、職場内での研修実施。 □にぎわいスタッフ向け接遇研修実施回数	実施	実施	-	個人情報の取扱事故ゼロ。区民優待デーのチラシ上の施設のホームページURLの誤記載あり。 必ず2名での確認を徹底。 導入2年目。顧客情報は外部サーバーで管理。 副館長が財団主催の人権研修に参加し、職場で共有。 にぎわいスタッフ向け接遇研修で人権尊重について研修。 施設の利用スケジュールを管理センターと共有。利用状況に合わせた細かな調整を実施した。	
		■新たにゴミ処理有料化を開始し、ゴミの軽減と持ち帰りを促進	実施	未実施	-	30年度実施予定。	
4 個人情報保護等、本市の重要施策を踏まえた取組を行います。	①個人情報保護・情報公開、人権尊重、環境への配慮、市内中小企業優先発注等の取組の実施	①個人情報保護・情報公開 ■「財団の個人情報保護に関する規程」「にぎわい座個人情報取扱マニュアル」を遵守。 ■ファックス送信や郵送の際のダブルチェックの徹底。 ■入場券販売に票券管理システムを導入し、紙ベースでの顧客情報保管を廃止。 ② 人権尊重 ■人権研修への参加、職場内での研修実施。 □にぎわいスタッフ向け接遇研修実施回数	実施	実施	-	個人情報の取扱事故ゼロ。区民優待デーのチラシ上の施設のホームページURLの誤記載あり。 必ず2名での確認を徹底。 導入2年目。顧客情報は外部サーバーで管理。 副館長が財団主催の人権研修に参加し、職場で共有。 にぎわいスタッフ向け接遇研修で人権尊重について研修。 施設の利用スケジュールを管理センターと共有。利用状況に合わせた細かな調整を実施した。	
		③環境への配慮 ■施設の利用状況を細目に確認しながらの空調・照明のオンオフ操作による光熱水費の削減。 ■新たにゴミ処理有料化を開始し、ゴミの軽減と持ち帰りを促進	実施	未実施	-	30年度実施予定。	
		④市内中小企業優先発注 □備品・消耗品購入 □修繕・備品の買い替え □印刷物	90%以上 90%以上 80%以上	91% 80% 86%	B C B	備品は市外専門業者への発注があり、目標未達成。	

平成29年度 横浜にぎわい座指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H29年度計画		実施状況			評価	
Ⅲ維持管理目標	特記(提案事項要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
1 施設及び設備の維持保全及び管理	1	①施設及び設備の維持保全及び管理 ・共用部:ビル管理組合との連携、大規模修繕への配慮 ・専有部:建築設備等、舞台設備、備品、消耗品、清掃	■建築設備、舞台設備の施設保守管理業務項目一覧に明記された保全管理及び点検の遺漏ない実施 ■委託業者により設備系及び消防系の目視点検を毎日実施 □設備の不具合による施設貸出停止件数	実施	実施	各項目を遺漏なく実施。	【成果】 ・保全管理、点検は遺漏なく実施しました。 【課題】 ・経年により調達不能な部品等も発生しており、故障に対応できないことが懸念されます。 【改善が必要と考えられる点】 ・特になし。	
	2			実施	実施	毎日遺漏なく実施。		
	3		□設備の不具合による施設貸出停止件数	0件	0件	B		
	4		□来館者アンケートにおける施設快適性評価	平均4以上	通年達成4.48	A		
2 小破修繕の着実な実行	5	①小破修繕の取組	■優先順位を的確に判断しての修繕、更新の実施	実施	実施	19件2,062千円の修繕、11件2,901千円の更新を実施。この他に、地下2階で携帯電話使用に向けたアンテナ工事を電話事業者とともに実施。ビル全体の大規模修繕5月～2月に実施協力。	【成果】 ・頻発する故障に適切に対処し、利用者に影響が生じないように努めました。 【課題】 ・経年劣化は今後確実に増えていきます。対応が遅れた場合、施設の運営に大きく関わるものもあり、市と連携した対応が必要です。 【改善が必要と考えられる点】 ・特になし。	
3 事故予防及び緊急時の対応	6	①事故防止体制、緊急時(防犯)の対応・感染症対策等衛生管理の実施、複合ビル内の連絡体制の確保	①事故防止対策、緊急時(防犯)対応 □施設管理者有責による人身事故件数	0件	0件	B	【成果】 ・施設有責に加え、お客様事由による怪我等も報告されていません。 【課題】 ・高齢のお客様が多い施設として、全ての職員が適切な介助ができるように研修等で取り組む必要があります。 【改善が必要と考えられる点】 ・特になし。	
	7		□サービス介助士資格取得者在籍数	1人以上	1人	B		
	8		■職員及び委託業者による巡回やモニタリングにより、危険、要介護者、および各種異常を早期に発見し、適切に対応	実施	実施	—		
	9		■施設の利用状況に合わせ、楽屋管理口のにぎわいスタッフが常駐し、開施設及び管理を実施	実施	実施	—		
	10		②感染症対策 ■職員及び委託業者による巡回で異常を早期に発見	実施	実施	—		
	11		■汚物処理は感染症を念頭におき、効果的に実施。	実施	手指消毒液配備	—		
	12		③緊急時の体制、連絡体制 ■ローテーション勤務中、予め当日の責任者を明確にして対応。 ■自主事業や観客の多い貸館公演の日は、出勤職員を増やして対応。	実施	実施	—		
4 防災に対する取組	14	①危機管理マニュアルの整備及びそれに基づく訓練の実施、その他防災に関する事項	■現行マニュアルの検証と改訂	実施	実施	—	【成果】 ・文量の多いマニュアルに加えて、避難誘導時の各自の行動を簡潔に記した「防災シート」を作成しました。全員参加の防災訓練は3回実施、通常の開館時間に「ミニ防災訓練」を8回実施しました。 【課題】 ・地震、津波中心の訓練を実施してきました。火災や不審者対応、酔客クレームなどへの訓練も必要です。 【改善が必要と考えられる点】 ・引き続き、災害発生時に備えた、体制の維持のため、訓練やマニュアルの検証等を継続して行ってください。	
	15		□異なる設定で全職員参加の避難訓練実施	2回以上 (うち1回は町内会・マンション住民参加)	3回実施 (うち1回はマンション住民参加)	A		
	16		■非常時には一時滞在施設・避難受入施設と同等の対応を実施	実施	なし	—		
5 その他管理に関する事項	17		■専門業者に委託し、関係法令ならびに管理業務基準に沿った管理・保守点検を実施	実施	実施	—	【成果】 ・管理センターとは常にコミュニケーションを取り、管理・保守点検を遺漏なく実施しました。 【課題】 ・管理センター職員の異動が情報共有や管理実績の把握に影響しないよう、管理センターとの連絡を密にする必要があります。 【改善が必要と考えられる点】 ・特になし	

平成29年度 横浜にぎわい座指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H29年度計画		実施状況		評価	
IV 収支	特記(提案事項要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
1	適切な収支構造及び収支バランス	(収支計算書) 適切な収支構造、収支バランスの確保	実施	実施	(収支報告書) 29年度決算は1,641千円支出超過(赤字)。利用料金収入が目標に達せず、光熱水費も28年度比13%増、消費税も増額となった。自主事業収入(入場料収入、貸切公演料ほか)は増加し、自主事業収支は16,908千円の収入超過(黒字)。	【成果】 ・全体の収支差額は1,640千円の赤字となりましたが、事業収支の改善をベースにした安定した施設運営に移行しつつあります。 【課題】 ・事業では1～3月の入場料金収入が大きく、10月に実施する仮決算だけでは収支を予測することができません。1か月ごとにきめ細かく収支状況を把握する必要があります。	【評価できる点】 ・これまで行ってきた事業面の売り上げ増の取組が功を奏し、安定した事業収支となっています。 【改善が必要と考えられる点】 ・事業と貸館の収入安定化、効率的でバランスの取れた収支への取組が継続して必要です。特に貸館利用の促進については、本腰を入れた取り組みが必要と考えられます。
2	指定管理料にのみ依存しない収入確保の取組	①利用料金収入の確保 ■利用率 □収入目標	(Ⅱ-2再掲) 20,800千円	18,910千円	B 利用率、利用料金収入とも28年度を上回るものの、目標には達せず。 検討継続。	【成果】 ・チケット販売システムによる顧客管理(メールニュース配信や顧客属性の分析)、インターネット販売、定番公演のリニューアルや区民優待販売、開館15周年記念事業などにより、集客が増加し、事業収支が大幅に改善しました。 【課題】 ・利用料金収入が2年連続して目標に達していませんが、28年度に比べ、利用率、利用料金ともに増加し、施設見学会や広告出稿などの効果が現れています。今後も積極的にPRを行う必要があります。	【評価できる点】 ・事業収入のほか、チケット販売方法や支払方法の工夫なども部分的には収支改善に功を奏していると見られます。 ・課題を全て一朝一夕に解決することは困難な中、一つ一つ可能などから取組に着手している姿勢は評価できます。 【改善が必要と考えられる点】 ・利用料金収入の課題は、施設運営の課題(Ⅱ-②)と連動して未達が続いています。効果的な取組の実践に向け、具体的な検討を進めてください。
3	②チケット受託販売 ■チケット受託販売手数料の改訂	実施	未実施	-			
4	□受託実績 ※公演月若しくは精算月に計上	24 公演以上	41 公演	A	チケット取り扱い中であることをホームページや掲示物でPR。		
5	③自主事業収入の増収 ■WEB 申込みなどチケット販売方法の変更	実施	実施	-	抽選販売、セット券販売などチケット販売システムの機能を活用した販売方法を活用。取扱クレジットカードも増やし、顧客の利便性を向上。		
6	□入場料収入	130,003千円	142,485千円	B	「横浜にぎわい寄席」「名作落語の夕べ」、正月興行が好調など。		
7	■団体誘致用広報チラシ作成	実施	在庫使用	-	在庫があるため、新規では作成せず。		
8	□団体販売実績(月平均)	8 団体以上	6.2団体	C	窓口で10枚以上直接購入した場合はカウント不可となる。実際には団体利用は増加。		
9	④協賛金の獲得 □協賛(現物協賛を含む)件数	3 件以上	1 件	C	チケットホルダーへの広告掲載。		
10	⑤オリジナル商品開発及び販売 □商品売上 □オリジナルグッズ新商品	200千円以上 (Ⅱ-2再掲)	293千円	A	手拭い、チケットホルダー、ハンカチ、歌丸館長著作。		
11	⑥テレビ番組収録の誘致 □経常公演のテレビ収録	6 回以上	7回	A	「名作落語の夕べ」ほか。		
12	⑦経費削減 ■入れ、見積もり合わせの徹底	実施	実施	-	財団経理規程を遵守し、適切に実施。		
13	■計画的なチラシ発送による郵送料の削減	実施	実施	-	チラシの発送を月2回に集中実施。		
14	⑧コスト意識 ■シフト調整、公演表方チーム制による業務分担の見直し等による超過勤務削減	実施	実施	-	表方チーム(定年後の再雇用)による対応185公演。		

評価項目		H29年度計画		実施状況		評価	
その他	特記(提案事項要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
1						【成果】 【課題】	【評価できる点】 【改善が必要と考えられる点】

評価項目		H28年度計画		実施状況		評価	
総括	特記(提案事項要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
1						<p>・第三期指定管理の2年目。第二期の課題であった支出超過、特に4年間にわたり自主事業収支が赤字であったことへの改善に積極的に取り組みました。にぎわい会員制度発足、チケット販売システムの導入(インターネットによるチケット販売)、定番公演のリニューアルなどの施策の効果が今年度は明確に現れています。</p> <p>・落語ファンの期待に応える鑑賞機会提供の場としての役割に加え、大衆芸能、そして横浜にぎわい座という施設機能を使って地域社会と関わることを重視しました。福祉や教育の現場へのアウトリーチ、NPOや近隣施設との共催事業(展示、連携企画など)、こどもの創造性や感性を育む取組み(寄席体験)にも力を入れました。</p> <p>・年間を通じた相談対応やコーディネートを行い、大衆芸能の専門文化施設としての役割を発揮することに繋がりました。</p> <p>・施設運営(貸館)については、一部の新サービスが手つかずになっており、30年度に早急に対応する必要があります。また、新たな来館者が増える中で、これまで以上に接客能力を高め、新たなサービス提供や、安全管理の必要性が高まっています。これらを実現、維持するために職員や窓口スタッフの指導にも注力する必要があります。</p>	<p>・事業面では、集客とそれに連動したチケット売上が、昨年度に続き全般的に好調と言えます。落語界全体の盛り上がり、施設の個別の努力や工夫が良い方向へ連鎖反応を起こしていると考えられます。</p> <p>・一方、貸館利用率向上に関する取組は、当初からの課題が継続しており、腰を据えた取組が必要です。</p> <p>・次世代の集客やすそ野拡大の取組は、工夫をしながら細かく取り組んでいることが様々な場面で確認できました。</p> <p>・今後は健全な財務状況を回復する中で、事業面でのさらなる挑戦と、貸館運営の底上げに、バランス良く取り組んでください。特に、公演の集客や施設利用者、周辺プログラムの参加者等を含めた、より多くの市民に大衆芸能の魅力を伝えていくことにより、横浜にぎわい座の役割を果たしていくことを期待します。</p> <p>・一つ一つの優れた取組については、それが一過性のものにならないよう、しっかりと実績の評価・検証と改善を行いながら、今後の発展的な継続に向けた取組を、進めてください。</p> <p>・また、にぎわいスタッフの発券業務スキルアップについて、継続して対策を行っていただきたいと考えます。</p>